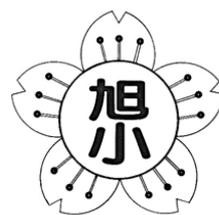


- ・かしこい子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



令和3年3月11日号

## 震災を風化させないとは

10年前の3月11日に東日本大震災が発生しました。

右の写真は岩手県宮古市に立つ「大津波記念碑」という石碑です。碑の下部には「明治29年の津波で、村の生存者はわずか2人、昭和8年の津波では、4人だけだった」と過去の被害が刻まれています。

しかし、この碑に書かれているのは、それだけではありません。それを踏まえ「今後どうするのか」という対策が刻まれているのです。



高き住居は児孫(子孫)の和樂  
 想(おも)へ惨禍(さんか)の大津浪  
 此処(ここ)より下に家を建てるな  
 明治二十九年にも、昭和八年にも津浪は此処まで来て  
 部落は全滅し、生存者僅(わず)かに前に二人後に四人のみ  
 幾歳(いくとし)経るとも要心あれ

つまり、「津波は、ここまで来る。ここから下には、家を作ってはならない」と警告しているのです。この姉吉地区はその教えを守り高台に集落をつくりました。実際に沿岸部の家々が津波で押し流された宮古市で、この地区は建物被害が1軒もなかったそうです。

東日本大震災から10年たちました。記憶は日に日に薄れていきます。「震災の記憶を風化させてはならない」という言葉を耳にします。しかし、「風化させない」とはどのようなことでしょうか。それは「忘れない」ということではないのです。再発を防止するための努力です。それは、自分が自分の暮らしの中でできるのです。それを怠ったとき、また同じ悲劇が起きます。

何となく「まさか今日ではないだろう」と思ってしまわないのでしょうか。そんな**「慣れ」こそが災害対策の最大の問題点です。**

東日本大震災の起こった日をきっかけにして、各ご家庭で災害時の行動について確認しておくのもいいかと思います。ぜひ、お子さんと確認をしておいて下さい。災害はいつ、どんな状況でやってくるか分かりません。常に【最悪の状況】を考えておくことが大切です。

# 家庭での災害対策



公的機関から家庭における災害対策についてWebページが作られています。これらを参考にして話し合いを行ってみるのもいいでしょう。首相官邸 「災害に対するご家庭での備え」→

この中で特に確認しておいていただきたいのは、**家族の安否情報の確認方法**です。大災害時には電話やネットが使えなくなることもあります。東日本大震災のときも電話は全く使えませんでした。学校から午後3時30分頃保護者に向けて発信したメールが到着したのは夜中でした。災害はいつやって来るかも知れません。具体的に「いつ、どのような状況のときには、どうするのか」を確認しておきましょう。

## もしも、校内にいるときに災害が発生した場合

本校では登校後で児童が校内にいるときに大きな災害が発生した場合は、保護者が直接お迎えに来られるまで児童をお預かりします。詳細は本校webに「大地震発生時の対応」として掲載してあります。紙で配付もしてあります。

電話などの通信機器等が使えなくなる可能性があります。震度5弱以上の地震が発生した場合は、**メール等の連絡がなくても学校に迎えに来てください**。保護者がお迎えに来るまで、お子さんをお預かりします。災害情報を確認し学校へのお迎えをお願いします。学校近隣の渋滞による緊急車両の遅れを避けるため**徒歩での迎え**とします。なお、**学校への電話による問い合わせはお控えください**。(救急要請など、大切な連絡ができなくなります)



一昨年の夏に気仙沼の親戚を訪ねた際に「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」を見学しました。海岸沿いにあった気仙沼向洋高校の校舎を使った展示です。

下の写真は、校舎の3階の教室です。津波で流された自動車が教室に残されています。左の写真は校舎全景です。4階のベランダ部分が崩れているのは、近くの水産会社の大きな冷蔵庫が流れて来て衝突した跡だそうです。生徒は屋上に逃げて助かりました。

「災害対策は災害が起きる前にすべて決まる」と言われています。起こってからいくら振り返っても間に合わないのです。

